

## 令和7年度 第2回東海村環境基本計画推進委員会

■日時：2025年10月15日（水） 18:30～20:30

■会場：東海村役場 5階 原子力視察研修室

■出席者

委員

No.	氏名	所属	備考
1	照沼 毅	事業者代表 東海村メガソーラー株式会社 代表取締役	
2	戸川 隆	住民代表	欠席
3	川崎 卓男	住民代表	欠席
4	鈴木 由貴子	住民代表	欠席
5	佐藤 章一郎	事業者代表 株式会社佐藤工務店 代表取締役	
6	伊藤 亮輔	事業者代表 イオンリテール株式会社イオン東海店 店長	欠席
7	藤分 卓次	事業者代表 フジワクリーン 代表	
8	松本 友香子	住民代表	欠席

※欠席5名分の委任状提出あり

事務局

役職	氏名
環境政策課 環境政策課長	関田砂織
環境政策課 課長補佐	井澤良則
環境政策課	坂場郁哉
環境政策課	井坂駿佑

事務局（国際航業株式会社）

役職	氏名
河川海洋部 調査グループ 主任技師	深田雅彦
カーボンニュートラル推進部 グループ長	直井隆行
カーボンニュートラル推進部 技師	香川裕紀
河川海洋部 調査グループ 技師	三浦雄太
水戸営業所	池田英助

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境政策課長あいさつ
- 4 議事
  - (1) 計画策定スケジュールと今回会議の目的
  - (2) 前回委員会の振り返り
  - (3) 第4次東海村環境基本計画素案について
  - (4) 計画素案について質疑応答・意見交換
  - (5) 計画書(案)について
  - (6) 計画書表紙4案について
    - 資料1 全体スケジュールと各会議の目的
    - 資料2 前回推進委員会の振り返り
    - 資料3 第4次東海村環境基本計画素案
    - 資料4 生物多様性増進活動促進法及び自然共生サイト(OECM)事例
    - 資料5 計画書(案)
    - 資料6 計画書:表紙4案
- 5 その他
- 6 閉会

## ■議事録

1. 開会	
2. 会長あいさつ	
照沼毅会長より、以下のあいさつを賜った。 ・今年度第2回の委員会となり、実質的なまとめに入る段階である。自分たちの責任を果たし、活発なご意見をいただきたい。	
3 環境政策課長あいさつ	
関田環境政策課長より、以下の旨のあいさつを行った。 ・前回の委員会において、第4次東海村環境基本計画の策定に向けた基本的な方向性や、構成案について、貴重なご意見をいただいた。 ・本日は、素案に対する意見をさらにいただくとともに、重点的に取り組む施策や、最終的な計画書案をご提示させていただき、より充実した計画としていくためのご意見を幅広く頂戴したい。 ・本日の議論を踏まえた計画案は、年内にパブコメを実施する予定である。	
4. 議事	
第4次環境基本計画の策定に向けての説明として、事務局より以下の説明を行った。 ・前回の推進委員会にて素案を提示し、多くのご意見をいただき、計画の内容について作成を進めている。 ・本委員会の実施後、住民向けのパブリックコメントが控えているため、本日の委員会にて皆様からご意見をいただき、パブコメや年度内の策定に向けての内容の精査を進めていきたいと考えている。 ・本日は、今年度の委員会のスケジュールや進め方、各会議の目的、前回委員会の振り返り、計画素案、計画書表紙等に関する意見収集を行う。	
資料1、資料2について	
事務局より、今年度の委員会のスケジュールや進め方、各会議の目的、前回委員会の振り返りについて、説明を行った。【資料1、資料2】	
委員	前回の意見が反映されており、わかりやすく表現していただいている。
委員	新しい用語について、横文字だとわかりづらいため、具体的な説明を入れていただいた方が、村民にもわかりやすくなるのではないかと。
委員	佐藤委員がおっしゃるように、横文字に関する説明を入れていただきたい。
委員)	p.8、9、11はコラムが入っており、計画書前半の内容はわかりやすく感じた。
資料3、資料4について	
事務局より、第4次東海村環境基本計画素案について説明し、質疑応答・意見交換を行った。【資料3、資料4】	
委員	p.81に関して、最近ではメガソーラーに対するネガティブな意見が多くある。そのような中、水上太陽光発電を記載しているが、東海村に湖は無い中で建設することはできるのか。個人的に水上太陽光発電に関する内容は、記載しない方が良

	いと感じる。バス停の屋根に設置する事例はよいが、湖も無いため、村有地への太陽光発電の導入に関する内容も入れなくてよいのではないかと。村所有の建物の屋根に設置するという方が良いと思う。
事務局	緑地等に検討していくというより、ため池等に、浮き型の太陽光発電を設置することで、未利用地の利用と水質保全ができないかということで入れている。メガソーラーのような規模ではないため、適した太陽光発電の規模の画像や、ため池発電の構造図を入れるなど工夫する。阿漕ヶ浦のようなところに設置するのではないため、誤解されない内容を再検討する。
委員	メガソーラーに関連して、村内では農地の休耕が生じている。今年のように気温が高いと、農作物に悪影響がある。海外では農地の半分に太陽光発電を入れて、農業をしながら太陽光発電も行うことにより、気候変動への対策や収支安定につながっている。メガソーラーは大雨の際に、雨水が問題になるイメージもある。農地に関しては、農地を保護しながら、太陽光も並行して導入する形が非常に良いと思う。農作物に直射日光が当たらないようにすることもできる。
委員	当社でも農地転用を行わずに、サツマイモ畑等にソーラーシェアリングを導入したことがあり、ソーラーシェアリングは進めた方が良く考える。村内でも導入している農地もある。導入後は耕作量を毎年報告する義務がある。電力は売電でも自家消費でもよい。
委員	ソーラーシェアリングの導入に関して、国の補助は出ていないのか。
委員	出ていない。遮光率が上がるため収穫量は減るが、直射日光を防ぐことで作業効率が良くなるメリットがある。
事務局	ソーラーシェアリングについて、庁内ヒアリングで農業部局に確認している。農業部門で策定する計画内において、スマート農業の一環として重点的に取り組む予定であるが、本計画には具体的な内容は入っていない。
委員	ソーラーシェアリングの取り組みにより、農地を手放す人が少なくなると考える。
委員	農業者個人として導入することは難しく、企業等が出資してくれないと導入は困難である。
委員	ソーラーシェアリングを導入する場合は、田んぼより畑の方が望ましい。
委員	売電と農作物の売却による収入を得ることができるため、よい取り組みと考える。
委員	水耕栽培は、ハウスの中で土を使わない手法であるが、環境には良いのか。また、ハウスの上に太陽光を付けられるのか。
事務局	菌床栽培の事例は全国的に出てきており、建屋の上に太陽光をつける事例もある。また、都市緑化の一環で、建物の屋上に入れる事例もある。照明で特殊なLEDを使う際、電力負荷が多くなるため、太陽光を合わせる事例が多い。
委員	全体的に写真や図が多くわかりやすいが、コラムの部分で文字が多くなってしまっている。コラム内も写真や図を入れて、わかりやすくしてほしい。

事務局	更にわかりやすい内容を検討する。
資料5、資料6について	
事務局より、最新版の計画書案及び計画書表紙デザインについて説明し、質疑応答・意見交換を行った。【資料5、資料6】	
委員	案4がよい。文字の大きさのみ、案1程度にさせていただきたい。
委員	最終的に住民に配布するのか。
事務局	最終的にはHPに掲載する。何部か製本したものを公共施設や図書館に配布するが、住民全世帯への配布は考えていない。A4、8ページ程度の概要版も作成するが、全世帯への配布は考えていない。
委員	ゼロカーボンシティの目標は、現状どの程度達成しているのか。
事務局	2021年度のCO2排出量が、2013比で-21%である。素案p.43に目標を記載しており、2030年までに-46%、2050年までにカーボンニュートラルを目指している。
委員	審議会では、ゼロカーボンシティ東海村に対する意見は出ていないのか。
事務局	審議会の意見として、「力を合わせて」という文言を明記した方が良いという意見があった。
委員	もう少し「ゼロカーボンシティ」に関する内容を明確に記載した方が良い。
委員	ゼロカーボンシティの実現は、現実的に困難と考えている。目標は目標が良いが、現実をよく見て、今後どのように取り組んでいくかが重要である。ヨーロッパではEVが普及しているが、日本ではEV購入に補助金が出ているものの売上が上がっていないのが現状である。目標に到達するために大胆なことをしていく必要があると考える。普通の努力では、ゼロカーボンシティの実現は難しい。真剣に取り組んでいくことが重要である。 表紙に関して、インパクトがあるのは、案1や案2のように、画像が入ったデザインの方が、村民もイメージしやすいと考える。
委員	案3が柔らかい印象で親しみやすいと考える。好みのデザインは、年代や環境への関心度で変わると考えられる。
委員	画像が入っている方が、村民が東海村の良さを発見できるかもしれない。
委員	漫画チックなデザインも、村民が興味を持ち読み始めるきっかけとなる。
5. その他	
6. 閉会	

## ■推進委員会の様子

